

平成15年度事業報告書

社団法人瀬戸内海環境保全協会

I 一般事項

1. 会議等の開催

(1)平成15年度通常総会（平成15年5月20日 六甲荘）

①受賞者表彰（瀬戸内海環境保全月間ポスター公募最優秀賞等）

最優秀賞（環境大臣賞）

伊藤 徹（いとう とおる） 三重県 長島町立長島中部小学校1年生

優秀賞（瀬戸内海環境保全協会会長賞）

子供部門 陣条 友盛（じんじょう ゆうせい） 兵庫県 神戸中華同文学校小学1年生

一般部門 島本 沙紀（しまもと さき） 香川県 県立高松工芸高等学校1年生

②総会議事

- ・平成14年度事業報告及び収支決算
- ・平成15年度事業計画及び収支予算
- ・国に対する要望
- ・役員の変更

③特別講演会

講演：変化する瀬戸内海の生態系

講師：京都大学大学院農学研究科教授 藤原 建紀

(2)理事会

①第73回理事会（平成15年5月14日 ラッセホール）

- ・会員の入会承認
- ・専門委員会設置要綱の改正
- ・専門委員会委員の委嘱
- ・通常総会付議事項

②第74回理事会（平成16年3月16日 ラッセホール）

- ・職員給与規則等の一部改正
- ・平成15年度収支予算の補正
- ・平成15年度事業実施状況
- ・平成16年度事業計画案及び収支予算案

(3)専門委員会等

①企画委員会

ア 第69回企画委員会（平成15年6月26日 国際健康開発センター）

- ・平成15年度事業の進め方について
- ・瀬戸内海環境保全特別措置法制定30周年記念事業について

イ 第70回企画委員会（平成16年3月5日 国際健康開発センター）

- ・平成15年度事業実施状況について
- ・平成16年度事業計画（案）について

②調査委員会（平成16年1月30日 ホテルグランヴィア和歌山）

- ・平成15年度瀬戸内海環境情報基本調査結果について
- ・平成16年度瀬戸内海環境情報基本調査計画（案）について

③編集委員会

ア 第1回編集委員会（平成15年7月3日 兵庫県民会館）

- ・協会総合誌「瀬戸内海」第34号～第36号の原稿収集について

イ 第2回編集委員会（平成16年1月22日 兵庫県民会館）

- ・協会総合誌「瀬戸内海」第37号及び第38号の原稿収集について

④賛助会員事業部会

第1回賛助会員事業部会（平成15年8月5日 兵庫県民会館）

- ・平成15年度事業計画の検討

事業部会：関西電力（株）、川崎重工業（株）神戸本社、（株）神戸製鋼所、マツダ（株）、四国電力（株）、東芝セミコンダクター社大分工場、総合科学（株）、東和科学（株）、山口県瀬戸内海環境保全協会

(4)参事・事務局長並びに担当課長会議（平成16年3月23日 国際健康開発センター）

- ・平成15年度事業実施状況について
- ・平成16年度事業計画（案）について
- ・会員からの情報提供

2. 専門委員の委嘱

企画委員、調査委員、編集委員を委嘱した。

(1)企画委員

内藤 昇	大阪府環境農林水産部循環型社会推進室環境管理課長
英保 次郎	兵庫県健康生活部環境局水質課長
稲田 英明	広島県環境生活部環境創造総室環境調整室長
大森 利春	香川県環境森林部次長兼環境管理課長
上野 正利	大分県生活環境部環境管理課長
木股 昌行	神戸市環境局主幹（水環境保全担当）
蔵本 成洋	福山市環境部環境保全課長
後藤 浩	山口県漁業協同組合連合会専務理事
宮本 寿	愛媛県漁業協同組合連合会専務理事
岡崎 進	（社）大阪エイボランタリーネットワーク事務局長
木原 敏博	（財）広島県環境保健協会常務理事

(2)調査委員

小野沢征輝	大阪府環境情報センター所長
川村 隆	兵庫県立健康環境科学研究センター所長
辻 力	和歌山県環境衛生研究センター所長
小倉 肇	岡山県環境保健センター所長
高田三千人	広島県保健環境センター所長
宮村 恵宣	山口県環境保健研究センター所長
三木 教碩	徳島県保健環境センター所長
藤田 淳二	香川県環境保健研究センター所長

井上 博雄	愛媛県立衛生環境研究所長
加藤 元博	福岡県保健環境研究所長
甲斐 崇明	大分県衛生環境研究センター所長

(3)編集委員

井上 祐一	関西電力株式会社環境室環境技術グループマネジャー
岩田 健治	東和科学(株)取締役事業経営本部副本部長
英保 次郎	兵庫県健康生活部環境局水質課長
大森 利春	香川県環境森林部次長兼環境管理課長
岡本 亮	(財)広島県環境保健協会環境科学センター環境企画部長
勝野聡一郎	環境省環境管理局水環境部閉鎖性海域対策室室長補佐
北村 弘行	元(社)瀬戸内海環境保全協会参与
谷本 高敏	兵庫県立健康環境科学研究所センター水質環境部長
西田 正憲	奈良県立大学地域創造学部教授
久野 武	関西学院大学総合政策学部教授
藤井 正美	(財)日本食品化学研究振興財団理事
松村 真作	岡山県水産試験場長
真鍋 武彦	兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター所長
宮川 裕	(株)神戸製鋼所本社環境エネルギー部長
山村 尊房	(社)国際環境研究協会APNセンター長
湯浅 一郎	(独)産業技術総合研究所中国センター主任研究官
鷺尾 圭司	京都精華大学人文学部教授

3. 事務局職員等 (16.3.31 現在)

常務理事	中嶋 國勝 (兵庫県からの出向)
顧問	櫻井 正昭 ((財)自然公園財団専務理事)
事務局長兼業務課長	山崎 卓三 (兵庫県からの出向)
参事兼総務課長	大川秀二郎
主 査	杜 勝久 ((株)総合科学からの出向 ~平成15年5月31日)
主 査	西上 浩己 ((株)総合科学からの出向 平成15年6月1日~)
主 任	中井 純子
主 任	守安 雅代

II 事業

1. 普及活動及び活動支援事業

(1)平成15年度(第31回)瀬戸内海環境保全月間事業の展開(15.6.1~6.30)

瀬戸内海関係地域住民並びに関係者に対して、広域的な瀬戸内海環境保全意識の高揚を図るため、会員並びに関係諸団体の協力を得て、広く公募した作品によりポスターを作成し、これを掲示するとともに、パンフレットの配布などを行った。

- ・平成15年度瀬戸内海環境保全月間ポスターの一般公募最優秀作品
三重県長島町立長島中部小学校1年生 伊藤 徹君の作品

(2)平成16年度(第32回)瀬戸内海環境保全月間ポスターの一般公募(15.7.7~12.1)

ポスター選定委員会の開催（平成16年2月18日）

応募数 子供部門：139

一般部門：276 総数：415

(3) 瀬戸内海環境保全普及活動推進事業の実施

①瀬戸内海環境保全セミナーの実施

・近畿ブロック（平成16年2月26日 アウイーナ大阪）

テーマ：大阪湾の環境保全・自然再生を考える

講演：海は地球のゴミ箱か？

クリーンアップ全国事務局代表

小島 あずさ

パネリスト：パネリスト：大阪湾自然再生の取り組み

コーディネーター 大阪市立大学大学院工学研究科教授

小田 一紀

パネリスト なにわの海の時空館館長

石浜 紅子

国土交通省近畿地方整備局港湾空港部

地域港湾空港調整官

奥田 薫

大阪府環境農林水産部副理事

村井 保徳

大阪府立大学大学院工学研究科助教授

大塚 耕司

参加人数：76名

②瀬戸内海環境保全トレーニングプログラムの実施

新たに瀬戸内海の環境保全のための業務に従事することとなった会員団体職員を対象に研修会を開催した。

日時：平成15年8月26日～28日

場所：大久野島ビジターセンター（広島県）

講師：香川大学名誉教授

岡市 友利

広島大学名誉教授

松田 治

九州大学応用力学研究所教授

柳 哲雄

奈良県立大学教授

西田 正憲

環境省閉鎖性海域対策室

川上 泰平

環境省山陽四国地区自然保護事務所

嶋崎 愛子

ダイユウ技研（株）

（社）瀬戸内海環境保全協会

中嶋 國勝

参加人数：23名

(4) 瀬戸内海環境保全特別措置法制定30周年記念事業

平成15年度は、当協会が設立される根拠となった「瀬戸内海環境保全特別措置法（昭和48年瀬戸内海環境保全臨時措置法を改正）」が制定されて30年という節目の年を迎え、環境省、瀬戸内海環境保全知事・市長会議等との連携のもと、各種の事業を行った。

①シンポジウム

21世紀の瀬戸内海の環境保全を考える

—瀬戸内海環境保全特別措置法制定30周年を迎えて—

日時：平成15年10月14日

場所：新神戸オリエンタルホテル（神戸市）

プログラム：・瀬戸内海環境保全功労者表彰

環境大臣表彰、瀬戸内海環境保全知事・市長会議議長表彰

・優秀標語作品表彰

・記念講演「海は古里 ～私と瀬戸内海～」 映画監督 大林 宣彦

・パネリスト

「瀬戸内海の新たな課題について－瀬戸内海の環境保全・自然再生と活性化－」

コーディネーター 愛媛新聞社専務取締役 藤田 征三

パネリスト 山口県漁連販売（株）代表取締役社長 金子 信義

東京大学大学院総合文化研究科助手 清野 聡子

関西学院大学総合政策学部教授 久野 武

関西国際空港用地造成（株）代表取締役専務

古土井 光昭

九州大学応用力学研究所教授

柳 哲雄

参加人数：600名

②閉鎖性海域のための環境保全ノートブック作成事業（環境事業団助成事業）

瀬戸内海環境保全特別措置法制定30年を契機に、30年間という長き歲月の中で、刻々変化する社会情勢を背景に、いろいろな立場の人々が瀬戸内海の環境保全に悪戦苦闘してきた足跡を余すところなく記述した閉鎖性海域の環境保全対策ノートブック「生きてきた瀬戸内海－瀬戸内法30年－」を作成した。（1,200部）

(5)平成15年度瀬戸内海の環境保全に関する衛生団体合同研修会の開催

主催：瀬戸内海環境保全地区組織会議／（財）山口県快適環境づくり連合会／（社）瀬戸内海環境保全協会

日時：平成15年10月23日～24日

場所：山口グランドホテル（山口県）

基調講演：やまぐちの豊かな流域づくり構想～榎野川モデルと瀬戸内海環境保全～

山口県環境生活部環境政策課主査 山野 元

座談会：地域活動の活性化の要件を探る

参加人数：延べ120名

(6)賛助会員による瀬戸内海環境保全事業の展開

①平成15年度瀬戸内海環境保全月間行事（平成15年6月1日～30日）への積極的参加

・ポスター一般公募への協力

・月間ポスター等の提示による普及啓発活動の実施

・月間中の行事実施状況の取りまとめ

②平成16年度瀬戸内海環境保全月間ポスター一般公募への協力

③総合誌「瀬戸内海」の配布と投稿

④賛助会員研修会の開催

テーマ：自然再生

日時：平成16年2月6日

場所：大阪南港野鳥園、関西国際空港2期工事等

研修：大阪湾再生に向けての取り組み

大阪南港野鳥園における干潟造成と管理

関西国際空港2期工事及び藻場造成による生物生息環境創造

参加人数：42名

(7) 瀬戸内海スナメリ発見情報プロジェクト実践事業の展開

沿岸域住民の瀬戸内海に対する理解や関心を深め、自主的な取り組みを推進するための契機となるようスナメリ発見情報プロジェクト（環境事業団地球環境基金助成事業：平成11～13年度）を引き続き展開するとともに、スナメリのマスコットイラスト入りマグネットを作成・配布し、瀬戸内海の環境保全への普及啓発を行った。

(8) 瀬戸内海沿岸域における浜辺の観察教室（実践環境教育事業・日本財団助成事業）

（平成14年度～）

瀬戸内海における代表的な湾・灘において、子どもたちが浜辺に出かけ、直接様々な生き物に触れ、どのような環境にどのような生き物が生息しているのかを考える機会を作り、瀬戸内海における環境保全の大切さを学ぶ実践的な環境学習（環境教育）の場を提供した。

また、せとうちネットを活用し、環境教育の大切さを広くPRした。

① 備讃瀬戸（対象：磯（浜辺）の生物、プランクトン、干潟の生物）

・ 第1回：平成15年 6月21日 参加人数：48名

・ 第2回：平成15年10月19日 参加人数：34名

協力：香川大学農学部等

② 大阪湾（対象：海藻、プランクトン）

平成15年7月13日 参加人数：46名

協力：神戸大学内海域環境教育研究センター等

③ 伊予灘（対象：潮流、磯（浜辺）の生物、プランクトン）

・ 第1回：平成15年7月26日 参加人数：39名

・ 第2回：平成15年7月27日 参加人数：33名

協力：愛媛大学沿岸域科学研究センター等

(9) 環境保全活動テキストの発行

沿岸域の環境保全活動に資するため、瀬戸内海研究会議が環境事業団地球環境基金の助成を受けて編集・作成した環境保全活動テキスト「瀬戸内海とわたしたちー森～川～海からひと・くらし・いきものを考えよう」を協会で印刷、発行した。

(10) 瀬戸内海環境保全パネルの貸し出し

瀬戸内海の環境保全の普及・広報活動に資するため「瀬戸内海の環境保全パネル」をイベント等に展示・活用する目的で貸し出しを行った。

(11) 環境イベントへの参加

環境保全の普及・広報活動の一環として他団体が主催する環境イベントに参加し、パネル展示、資料配付などを実施した。

・ ふれあいの祭典「さわやか環境まつり」（ひょうごエコフェスティバル2003 15.10.4～5）

主催：ふれあいの祭典実行委員会他 姫路市大手前公園周辺（姫路市）

(12) 各種環境保全事業への協力

大阪湾クリーン作戦へ協力した。

(13) 環境NGO/NPOとの連携・支援

瀬戸内海における自然環境等の保全に努める環境NGO/NPOとの連携・支援を行った。

2. 指導・助成

各種環境保全活動事業に対する助成

中核市、漁業団体、環境衛生団体が実施する各種環境保全活動事業に対しその活動費用の一部を助成した。

3. 情報収集・発信事業

(1) 瀬戸内海研究・環境等情報ネットワークシステム（「せとうちネット」）の管理、運営

瀬戸内海に関する水質等環境情報や社会経済、文化・歴史等情報、各種調査研究成果等多様な情報の提供を目的として平成10年度に構築した「せとうちネット」の的確な管理・運営に努めるとともに、環境省の委託等により情報、データの追加・更新を行った。

15年度の追加項目

- ・漂着ごみに関する情報
- ・瀬戸内海に流入する河川流量情報及び大都市の降水量情報
- ・瀬戸内海のリモートセンシング画像
- ・各地方での魚類方言リスト
- ・浜辺の観察教室（備讃瀬戸編、大阪湾編、伊予灘編）

①せとうちネット管理運営委員会（委員長：柳 哲雄九州大学応用力学研究所教授）

開催日：第1回 平成15年11月4日

第2回 平成16年3月10日

(2) 総合誌「瀬戸内海」の発行及び配布

瀬戸内海の自然・社会・人文科学の総合誌「瀬戸内海」を次のとおり発刊した。

- ・平成15年 6月 第34号
- ・平成15年 9月 第35号
- ・平成15年12月 第36号
- ・平成16年 3月 第37号

(3) 資料集「瀬戸内海の環境保全ー平成15年度版ー」の発行及び配布

瀬戸内海に関連する各種資料をとりまとめ、収録した資料集「瀬戸内海の環境保全ー平成15年度版ー」を発行配布。

(4) 協会ホームページの更新

ホームページを通して、当協会の活動紹介及び環境情報等の発信の充実を図った。

4. 調査・研究事業

(1) 瀬戸内海環境情報基本調査（継）（環境省より受託 平成13年度～）

瀬戸内海の状態を継続的に把握し、環境保全に係る諸施策の効果を検証することにより、今後一層実効的な施策の検討、推進に資するため、これまで概ね10年を周期として実施してきた基本調査（底質・底生物等現地調査及び解析調査・文献調査）を実施した。

委員会：検討委員会（委員長：塩沢孝之広島県産業科学技術研究所副所長）

開催日：第1回 平成15年7月17日

第2回 平成16年2月 3日

調査項目：底質・底生生物等現地調査（大阪湾・広島湾・伊予灘・響灘）

解析調査・文献調査（紀伊水道・備讃瀬戸・備後灘・豊後水道）

(2) 瀬戸内海の地域特性を踏まえた有機汚濁機構の解明に関する研究（継）

（環境省より受託 平成14年度～）

瀬戸内海の各水域において、河川からの流入負荷のみならず、外洋水の流入にも着目した有機汚濁機構の解明を行い、水域特性に応じた負荷削減効果の検討や閉鎖性海域の環境保全対策の充実に資することを目的としている。

平成15年度においては、瀬戸内海及び内海から外洋に至る水質特性（栄養塩類）等を既存データ、現地観測結果から把握した上で、数値理論モデルを構築し、瀬戸内海全域におけるリン・窒素の陸域起源・外洋起源の比率を推定した。

今後は、構築した数値理論モデルをもとに、湾灘別にリン・窒素の陸域起源・湾外起源の比率を推定するとともに、各湾灘別の水域特性に応じて陸域からの負荷削減効果等について水域別に検討を行う。

委員会：検討委員会（委員長：柳 哲雄九州大学応用力学研究所教授）

開催日：第1回 平成15年 9月 6日

第2回 平成15年11月28日

第3回 平成16年 2月14日

(3) 累積埋立て環境影響対応方策検討調査（継）（環境省より受託 平成14～15年度）

瀬戸内海地域においては、瀬戸内海環境保全特別措置法の規定により、埋立てを厳に抑制する環境保全上の配慮がなされてきたところであるが、特に大阪湾では公共公益性からやむを得ず認められた埋立て等により海岸線の人工化が進み、水質浄化に重要な役割を果たす浅海域は大幅に減少している。

このことに鑑み、大阪湾に係る累積する埋立ての影響について、流動・水質等への影響を把握し、これら事業の複合的な影響について調査するとともに、種々の水質改善方策等の効果に係る解析、検討を行った。

委員会：対応方策検討委員会（委員長：渡辺正孝国立環境研究所領域長）

開催日：第1回 平成15年 8月11日

第2回 平成15年12月12日

第3回 平成16年 3月19日

(4) 海岸漂着ごみ調査（新）（兵庫県より受託 平成15年度）

淡路島では、海岸の漂着ごみが深刻な問題となっており、全島一斉の清掃や地域住民による自主的な清掃活動が続けられているが、問題はなかなか改善されないのが現状である。要因の一つとしては漂着するごみの原因者は不明で、かつ不特定多数であることが挙げられる。

海岸漂着ごみの現状を調査し、今後のごみ対策に活用するための基礎的な情報を得るため、淡路島の海岸において散乱ごみの定量的な調査、並びに海岸に隣接する河川でのごみの散乱実態調査を行った。調査にあたっては、住民参加型の清掃・調査を行い、ごみ問題に対する住民意識の啓発活動とした。

調査場所：島内5海岸（東浦町、洲本市：2箇所、西淡町、北淡町）

5. 瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

瀬戸内海研究会議の事務局を担うとともに、研究会議が行う事業の運営推進を支援し、協力した。

(1) 瀬戸内海研究会議事務局

円滑な事務運営に務めるとともに、事業を適切、効率的に遂行した。

(2) 「瀬戸内海研究フォーラム in 大分」及びワークショップの開催に対する支援・協力

瀬戸内海研究会議が開催する「瀬戸内海研究フォーラム in 大分」等の開催に対し、支援・協力した。

瀬戸内海研究フォーラム in 大分：平成15年8月21日～22日 コンパルホール（大分市）
「里海～西瀬戸からの発信～」

瀬戸内海研究会議ワークショップ：平成15年10月15日 兵庫県民会館（神戸市）

「瀬戸内海はどう変わったのか？～瀬戸内法30年の歩み～」

6. 国際的な活動への参加と協力

（財）国際エメックスセンターが主催した第6回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス2003（15.11.18～21：タイ王国バンコク市））に合わせて結成された東南アジア沿岸域環境保全対策視察・調査実行委員会に参画し、エメックス会議への参加及びタイ王国での視察調査に協力した。

7. その他関連事業

(1) 国に対する要望

協会が実施する事業及び調査研究の拡充強化並びに本協会の運営への配慮について国に要望した。

要望日：平成15年7月29日

要望先：環境大臣、副大臣、政務官、事務次官
環境省関係局部課室長

(2) 瀬戸内海環境保全知事・市長会議との協調

瀬戸内海環境保全知事・市長会議と連携を密にし、協調して事業実施に当たった。

(3) 賛助会員の加入促進

協会の目的に賛同する企業等の賛助会員加入の促進に努めた。